



平成21年度

南丹市行政評価推進委員会報告書

平成21年12月

南丹市行政評価推進委員会

目 次

1	はじめに.....	1
2	行政評価推進委員会の経過.....	1
	（ア） 評価対象施策	1
	（イ） 行政評価推進委員会の開催状況.....	2
3	評価の視点	2
	（ア） 施策評価におけるチェックポイント.....	3
4	評価の結果	4
5	評価結果の総括.....	11
	（ア） 評価表の様式について	11
	（イ） 評価表の記載内容について.....	11
	（ウ） 評価の進め方について	12
	（エ） 説明職員の対応について	12
	（オ） 施策の推進の状況について.....	12
6	おわりに.....	13

1 はじめに

南丹市における行政評価の取組みは、平成20年度に平成19年度実施事業のうち、74事業を抽出して、事務事業評価が実施されました。

これを受けて、本委員会では、74事業の中から2施策に関連する12事業を、外部評価の対象として、内部評価の客観性、妥当性などについて、検証を行ったところ
です。

2年目となる今年度は、前年度の取組みを踏まえ、総合振興計画の着実な推進を図るため、南丹市の内部評価において、施策を中心とした評価とすべく、評価手法が見直されました。

本委員会としても、これに基づき、総合振興計画に定める23施策のうち、11施策を抽出し、市の内部評価に対し、有効性、効率性、公共性などの観点から、検証を行いました。

2 行政評価推進委員会の経過

本委員会は、市が作成した施策評価表、事業評価表及び事業活動記録に基づき、23施策（418事業）のうち、11施策（132事業）を抽出し、事業担当部局からヒアリングを実施しました。また、ヒアリングにおける説明や質疑を踏まえ、各委員から指摘事項を出し合い、委員会として合議により意見のとりまとめを行いました。

(ア) 評価対象施策

章	節	施策名	構成事業数	主管部局
第1章		生涯充実して暮らせる都市を創る		
	第2節	明日を担い、内外で活躍する人を育てる	30	教育委員会
	第3節	生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	31	教育委員会
第2章		自然・文化・人を生かした郷を創る		
	第5節	伝統文化を継承する	14	教育委員会
第3章		人・物・情報を高度につなげる		
	第1節	高速移動の網を広げる	0	土木建築部
	第2節	鉄道を更に便利にする	8	企画管理部
	第3節	安全で快適な主要道路でつなぐ	6	土木建築部
	第4節	誰もが安心な地域交通システムをつくる	4	企画管理部
	第5節	双方向の情報通信基盤をつくる	3	企画管理部
	第6節	にぎわいの市街地をつくる	8	土木建築部

第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く			
	第1節	共に生きるまちづくりを進める	20	市民部
	第6節	行財政改革を推進する	8	総合政策室

(イ) 行政評価推進委員会の開催状況

会 議	開 催 日	内 容
第1回委員会	平成21年7月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成20年度行政評価の取り組みに関する総括について ○平成20年度行政評価の結果を踏まえた取り組みについて ○平成21年度行政評価推進委員会の進め方について ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・1-2 明日を担い内外で活躍する人を育てる ・2-5 伝統文化を継承する
第2回委員会	平成21年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・3-5 双方向の情報通信基盤をつくる ・3-4 誰もが安心な地域交通システムをつくる ・3-2 鉄道を更に便利にする
第3回委員会	平成21年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・3-1 高速移動の網を広げる ・3-3 安全で快適な主要道路でつなぐ ・3-6 にぎわいの市街地をつくる
第4回委員会	平成21年9月14日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・4-1 共に生きるまちづくりを進める ・1-3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる ・4-6 行財政改革を推進する
第5回委員会	平成21年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成21年度外部評価の総括について ○平成21年度行政評価推進委員会報告書について

3 評価の視点

評価は、施策ごとにヒアリングを行い、その中で質疑、意見交換を行いました。

評価に当たっては、次のチェックポイントにより、施策及びその施策に該当する事

業を通じて、「優」・「良」・「可」・「不可」の判定を行いました。

(ア) 施策評価におけるチェックポイント

評価項目	チェックポイント
課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は明確か ・課題の根拠は明確か（課題だといえる根拠は何か） ・課題に取り組む必要性は明確か（なぜ、取り組まなければならないのか） ・市が取り組む必要性は明確か（なぜ、南丹市が取り組む必要があるのか） など
目的について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の方向性は明確か（実現しようとする状態は何か） ・目的の必要性は明確か（なぜ、その方向へ向かうのか〔課題の必要性と同じ場合有り〕） ・市が取り組む方向として妥当か〔課題に取り組む必要性と同じ場合有り〕 など
目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・到達しようとする目標は明確か ・目標の根拠が明確か（達成目標が意味のあるものとなっているか） ・目的の方向性と目標が合致しているか ・成果の測定は合理的で十分か ・成果の発現は十分か など
総合振興計画との関係について	<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画が目指す方向性と合致した方向性となっているか ・他の関連施策や事業との連携は図れているか など
課題解決策・構成事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的達成に向けた課題解決策は適切か ・目標達成に向けた効果的な活動内容となっているか など
施策コストについて	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト配分は適切か ・効率的な施策（事業）執行となっているか など
総合評価・改善の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況について適格な評価となっているか ・目標設定や施策の考え方の見直し、展開の方向性が明確か ・活動内容（事業）の方向性は明確か など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の推進による弊害は生じていないか ・市民へ説明やアピールは十分行えているか など

4 評価の結果

章	節	施策名	判定
第1章	生涯充実して暮らせる都市を創る		
	第2節	明日を担い、内外で活躍する人を育てる	可
		<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目的」の欄に、1文で3つの内容が記載されている。それぞれの内容に対応策が事業となっているはずだが、目的を分割して記載することで、事業との対応が分かるようにシートを作成してほしい。 ・自治体として独自に取り組んでいることが何であるのかが、市民が読んで分かるようにしてほしい。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で現状においても少人数で学んでいるが、そのことについての評価をすべきではないか。 ・人口の将来予測として、子どもの数の減少とそれに伴う複式学級の発生見込みは、今後の施策を展開する上で、かなり重要なポイントであると考えられるので、評価表に記載しておくべきである。 ・学校施設の耐震化について、どのような基準を設けているのか、緊急度をどのように捉えているのかを評価の中に盛り込むことが大切である。 ・子どもの教育については、市民の感心が非常に高い分野であり、課題や今後の可能性について、分かりやすく説明することが必要である。 <p>〔特に今後取り組むべき事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、複式学級になっていくことについて、どう考え、対応するかを明確にする必要がある。 ・小学校の時代に、子どもに学ぶ基礎をどのようにつくるかが重要であり、その方向性を明確にする必要がある。 	
		生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	
第3節	<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業評価表や事業活動記録については、他の事業に比べると分かりやすく記載されているので、事業の内容が非常に把握しやすい。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の貸出の回転率が悪い。近くにあっても使わないのであれば、統合すれば良いという議論になる。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育施設を舞台として旧町の枠を超えて交流してほしいのなら、体育館や運動公園が旧4町それぞれにある意味がよく分からない。 ・ 人口規模に対して施設が多すぎるという印象は拭いがたい。 ・ 生涯学習での利用だけではなく、これだけの施設をどう活用しようとしているのか、ということが見えてこない。 ・ 合併して4年も経つのに、何も変わっていないということであれば、何のために合併したのかよく分からない。 ・ 講座等の面倒を見るのではなく、自主的な活動を促し、自分たちであまり活動をされないのであれば、その分野からは撤退するということがあってもよい。 ・ スポーツ振興に使ったお金と、医療費の関係について考慮することがあってもよい。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習施策は、民間とかぶっている部分でもあり、なぜ行政がするのか、どの部分までするのか、どこをゴールに行政がやり続けるのかについて明確にする必要がある。 ・ 施設が非常に多い。合併して4年。施設の廃止や転用について、体制も含めて、本格的に、長期的な展望をもって考える必要がある。 ・ 市民の生涯学習だけの活用を分析するのではなく、市外からの利用など、これだけの施設をどう活用するのかという視点からも検討すべきである。
第2章	自然・文化・人を生かした郷を創る	
	伝統文化を継承する	良
	第5節	<p>【評価表の記載に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価表等の記載のなかに、前向きな方向性が記載されていない。 ・ 評価表のまとめ方について、もう少し整理が必要。 <p>【内部評価の結果に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無形のものにしても、有形のものにしても、時代の影響をうけて変化しており、保存・継承だけでなく、「創造」や「発展」も視野にいれて取り組む姿勢を明確にすべきである。 ・ 文化を観光資源としていかに活用し、収入に結びつけるかというところを具体化していくことも必要である。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、歴史文化遺産を継承しなければならないのかという理念を持ち、説明できるようにする必要がある。

第3章	人・物・情報を高度につなげる		
	第1節	高速移動の網を広げる	評価せず
		<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体が南丹市ではないので、何をどう評価するのが難しい。 ・施策評価というのは、費用対効果を考えないといけないが、費用がでていないので、評価のしようがない。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード事業は、完了したあとの評価をしていないことが一番問題。成果をまとめて表に入れて、市民に伝えられるようにするべき。 ・縦貫道だけでなく、ネットワークとしての評価をしたほうが分かりやすい。 <p>〔特に今後取り組むべき事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策評価の総合評価では縦貫道のことだけに終始している。市として、高速移動の網をどうしたいのか。市の発展にどのように活用したいのかというところを明確に示す必要がある。 	
		<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体が南丹市ではないので、何をどう評価するのが難しい。 ・施策評価というのは、費用対効果を考えないといけないが、費用がでていないので、評価のしようがない。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード事業は、完了したあとの評価をしていないことが一番問題。成果をまとめて表に入れて、市民に伝えられるようにするべき。 ・縦貫道だけでなく、ネットワークとしての評価をしたほうが分かりやすい。 <p>〔特に今後取り組むべき事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策評価の総合評価では縦貫道のことだけに終始している。市として、高速移動の網をどうしたいのか。市の発展にどのように活用したいのかというところを明確に示す必要がある。 	
	第2節	鉄道を更に便利にする	良
		<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の柱立てがかなりピンポイントになっているため、現段階では複線電化が実現すればOKとなってしまう。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複線電化に合わせて、どういう仕掛けをしていくのか。他の施策ではどのように考えているのかという部分が大切。 ・基本的に便利になって、京都と園部の間は人が多く行き来するという前提で、いろいろな働きが変わるはずなので、その対応を考えておくことが必要である。 ・路線をコアにおいた形で、道路網があり、道路の上にはバス等があるので、それらをつなげた活性化策が必要である。 <p>〔特に今後取り組むべき事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複線電化に合わせて、子育て支援、鉄道利便化、観光、広報、大学連携、都市整備、雇用の場づくりなど、いくつもの施策が連動するような仕掛け、プロジェクトを考える必要がある。 	
<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の柱立てがかなりピンポイントになっているため、現段階では複線電化が実現すればOKとなってしまう。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複線電化に合わせて、子育て支援、鉄道利便化、観光、広報、大学連携、都市整備、雇用の場づくりなど、いくつもの施策が連動するような仕掛け、プロジェクトを考える必要がある。 			
第3節	安全で快適な主要道路でつなぐ	良	
	<p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路整備の目標と、目標達成に向けた課題を示し、それに対してどの程度改良できたかを表現しなければ、成果が伝わらない。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p>		

		<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備・改修について、限られた予算を有効に活用していくため、判定基準を持って、優先順位を付け進めていること、維持管理が重要であるという方向に変更されていることは評価できる。その内容を評価表に記載していないことが残念である。 ・道路関連事業が、リーズナブルなコストで発注されているかということが市民の気になるところであり、それが分かる資料づくりがあるとよい。 ・市民が知りたいことと、評価表に記載されている内容の乖離が大きい。この席上では質問によって重要なことを明らかにできたが、このような視点からも市民に説明していくことが重要であることを認識していただき、説明をもっと充実してもらう必要がある。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位をきっちり付け、具体的な目標設定、メリハリを付けて取り組みを進める必要がある。 	
第4節		誰もが安心な地域交通システムをつくる	良
		<p>【評価表の記載に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心な地域交通システムをつくるために、どのような目的や方針が立てられているのか、また、その方針と具体策である事業のつながりが妥当であるかの説明が不十分である。 ・ある程度企業採算性が持てる路線と無理な路線、スクールバスの部分が、渾然一体となっており分かりにくい。もう少し分かりやすく数値を出すことができないか、検討が必要である。 <p>【内部評価の結果に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動に困っているのは、車の運転ができない人、生活基盤として移動手段のない人だと思うが、現状でどれぐらい困った人がいるのかという実態を把握して、その対策を考える必要がある。 ・交通弱者への対応は、税金で補助する部分もあると思うが、一方で、ある程度効率性が要求される部分でもある。この人口で、かつ広域な地域で、路線をきちっと決めてバスを運行することは採算上、不可能に近い。 ・交通弱者の目線に近いところでバスを動かすとか、乗務員にもっと考えてもらって、路線と運行をもっと柔軟にしたほうが、目的にマッチする。 ・広い市域を公共交通機関で移動できるようにする必要があること、スクールバスと民間のものをうまく組み合わせたら効率が良いことは分かるが、実際問題として許容しうるコストで全体 	

		<p>の交通網が維持できているのかというところが問題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の規模や密度を考えると、採算的な路線バスの運行はできないが、利用者の実態に合わせて、フレキシブルに路線などの見直しを行うことが必要である。 ・乗客が少ない路線、便は小型の車を運行するという考えも必要である。NPOとか小回りのきくアイデアも必要である。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業性の面を追求するのか、交通弱者の保護、交通面の保障を迫及するのか、補助金が削減された場合も念頭におきながら、政策判断としてどう対応していくのか方向性を示す必要がある。
第5節	双方向の情報通信基盤をつくる	良
	<p>【評価表の記載に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤整備に投入されたコストがどれくらい回収できるのか。お金で回収できなくても、情報網を活用していくことで回収できることもあると思うが、それが説明されていない。 <p>【内部評価の結果に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八木地域については、共聴施設が無くても8割がテレビの視聴ができているという中で、CATV網の整備が必要であったという根拠を明確にすべきである。 ・園部地区が同軸ケーブルによる接続のままであるという課題があるのに、それに対する改善策が分かりにくい。ただ、園部には民間事業者の参入がある中、市として光ケーブルに替えるのかという検討は必要である。 ・整備と更新において、技術的な配慮を十分行う必要がある。 ・情報通信基盤の活用について、どこかの部署が総括して検討していく必要がある。また、評価においても同様である。 ・市全域にCATV網を整備し、情報を共有するということと、その費用の検証を十分に行う必要がある。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CATV整備につぎ込んだ費用、また今後つぎ込む費用が、CATVを利用したコンテンツから受けられるサービスに見合うものかどうか、抜本的に考える必要がある。 	
第6節	にぎわいの市街地をつくる	良
	<p>【評価表の記載に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工振興助成については、組織に助成金を支給するという方法をとっていることは分かるが、例えば、頑張っている組織がど 	

		<p>こか、組織の活動の成果はどうか、さらには、それらが大きな政策とどのように関連しているのか、など、市が支援組織に何を期待し、どこに重点をおいて支援をしようとしているのか読み取れない。</p> <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民に市内で、あるいは中心街で購買活動をしてもらう努力は、住民にまちづくりに参加してもらい、一緒に考えていただくというところから積み上げるしかない。その意味で、住民の参加状況、主体的な動きがどうなっているか、という視点からの記載が必要である。 ・区画整理に大きな費用をかけた本町地区に、にぎわいをどう生み出すかは今後の大きな問題である。 ・駅から本町にどのようにして人を寄せるのか、ビジョンを示す必要がある。 <p>〔特に今後取り組むべき事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理事業のハード面での事業終了が評価の終了ではなく、本町のまちづくりにどれだけ役立ったのかという検証は、今後も引続き行う必要がある。 ・市街地の開発にしても、にぎわいをつくるにしても、JR園部駅をどう活用するのかということが見えてこない。南丹市にとって、園部駅をどう活用するのかということが一番大きな課題だと考える。その辺を十分検討する必要がある。
第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く	
	第1節	<p>共に生きるまちづくりを進める</p> <p style="text-align: right;">可</p> <p>〔評価表の記載に関する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域センターでの講座や交流を軸にした取り組みを、主軸に目標を達成していくという方針が評価表からは読み取れない。 ・これだけの数の地域センターが必要であるという積極的な説明が、どこにも書かれていない。 ・事業活動記録にも、講座の参加者数等の記載もなく効果が見えない。 ・毎年取り組まれている内容が、前進しているのか、いないのか分かるような材料が提示されるべきである。 ・総合評価で、ものすごく抽象的なことが書いてあり、将来が見えていない。 <p>〔内部評価の結果に対する意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域分担制の導入検討や、助言体制などは評価できる内容であ

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的は明確でよい。人権意識が低い、浸透していないことが課題となっているが、今までに実施してきた啓発等の事業によりどれだけ効果があったのか、という評価が必要である。 ・ 性別、子ども、高齢者や障がいのある人など、さまざまな人権問題がある中で、歴史的経緯はあるかもしれないが、一部の対策に偏りすぎているのではないか。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんある施設が、今の時点では必要ということだが、必要とする材料をそろえるなど説得ができるようにする必要がある。また時間の経過とともに、うまく、最適に配置していくということも考える必要がある。 ・ 人権啓発を基軸にして、協働を進め、自治づくり、住民自治の体制づくりということを狙っていると思うが、そのストーリーを明確にする必要がある。
第6節	行財政改革を推進する	良
		<p>【評価表の記載に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度からの取り組みによる効果について、記載されていない。 ・ 職員の適正配置がうまくできているかというところなどが、シートに記載されていない。 ・ 行財政改革の推進という施策に直結していない事業が多い。 ・ 評価表や事業活動記録、補足資料については、昨年度よりは良くなっている。 ・ 予算外の改革努力も当然あるはずで、それが評価表に明記されていない。 <p>【内部評価の結果に対する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の説明に当たって、施策や事業の必要性、内容の妥当性などを明確に説明することが必要である。また、そうできることが、意識改革が進み、行動も変わったという結果である。 ・ 財政の危機的な状況からすると、このペースでこんなことをしていて大丈夫かという不安がある。 ・ 今まで、職員にプレゼンをするという意識は無かったと思う。評価表を書いてみることによって、どれだけ意識が変わったのかということを評価表に記載すべきである。 <p>【特に今後取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民に、こう変わりましたということアピールしながら、行政改革を進める必要がある。

5 評価結果の総括

(ア) 評価表の様式について

- ① 事業活動記録が導入されたことにより、事業の効果や費用対効果を非常に評価しやすくなりました。他の自治体では資料としてこれらが出されることはなく、議会や市民の方に事業の内容を理解していただく上でも非常に良いものです。

ただし、「施策評価表」「事業評価表」「事業活動記録」と3表存在するため、3つを並べて見る必要があり非常に見づらい状態となっています。

事業評価表の使い勝手があまり良くないことから、そこに含まれている要素を施策評価表と事業活動記録に分散し、2種類の調書となることを望みます。

- ② ヒアリングの際に提出いただいたデータなどの参考資料はとても見やすく、また重要なものですので、できる限り一般に公開いただくとともに、異動等で職員が変わってもちゃんと後任者に引き継がれるようにしていただきたいと考えます。
- ③ 各施策や事業における名称は総称となっても良いので、今、何に重点を置いているのかを具体的に記載していただくことが重要です。そうしないと、現在、重点的に取り組んでいる内容を理解してもらえない状況が生ずると考えられます。
- ④ 施策の目標の設定について、なぜこのような項目を目標としたのか、なぜこの年にこのような目標値を設定しているのかが分かるようにしていただきたいと考えます。
- ⑤ 施策コストについて、各評価表との関係が分かりづらく、非常に見にくくなっています。また、事業一覧で財源の内訳が表示されていません。コストは非常に重要な情報であり、分かりやすく明示すべきと考えます。
なお、平成20年度（評価年度）以外の施策コストには人件費が含まれていません。
人件費が費用の中で一番大きなコストであることから、施策や事業ごとにコストの計算をすべきと考えます。また、適正な人員配置を考える上でも、0.5人や0.3人など要した人員を明確にすることが必要だと考えます。

(イ) 評価表の記載内容について

- ① 所属長の総括評価という欄がありますが、記載されている内容はほぼ同じであり、本当に総括的な評価をされたのか疑問に思います。事業により状況は異なると考えられますので、的確に評価してください。
- ② 評価表の記載にあたっては、「府の補助があるから実施しています」「今の人員配置ではここが限界です」など、もっと正直な現状報告があっても良いと考えます。それによって、財政および体制的な限界と南丹市における現在の課題

が明確にできることが重要であると考えます。

(ウ) 評価の進め方について

- ① 記載項目や書式については整ってきたので、記載内容を充実し、評価のチェックポイントを絞り込むことを望みます。

また、教育委員会でも事業執行評価が行われていますので、職員の負担を軽減する意味でも、統一したほうが良いと考えます。

- ② 施策評価を実施していますが、施策間での優先順位は付けられていません。

今後、施策に優先順位を付けることは必要であり、非常に大切なことだと考えます。ただし、そのためには、総合振興計画の進捗度をどのような物差しで、具体的にどのように計っていくのかを考える必要があります。また、総合振興計画についても、評価を受けて見直すことを検討いただきたいと思います。

- ③ 南丹市は、合併して4年が経過しているにも関わらず、以前の体制のままで行われていることがあるなど、政策ではない部分で市が抱えている問題が存在しています。

このような問題は、施策評価では賄えない大きな課題でもあり、今後は、そのような問題にも取り組む必要があります。

(エ) 説明職員の対応について

- ① 職員の方から説明を受けていても、「この施策は、この事業は、絶対に必要なんだ。」という迫力が伝わってきません。もっと現場を踏んで、必要性とか費用対効果を訴えられる姿勢を見せてください。

また、自分が担当しているテーマについて、先進事例や典型的な失敗事例、近隣の動向、あるいは学問や研究の世界で言われていることについて、当然勉強して押さえられていることと存じますので、もっとやりたいこと、懸念していることをアピールしてください。

- ② ヒアリングには多くの職員の方へ出席いただき、ありがたかったのですが、時間確保など職員の負担を軽減するためにも、もっと部の中、課の中でしっかりと議論をし、内容を協議していただき、ヒアリングに際しては、部長あるいは課長が出席すればよいようにしてください。

(オ) 施策の推進の状況について

- ① 施策の目標を達成する上で、縦割りの組織では、効率性などで限界が生じることが予想されます。

横断的なプロジェクトや、施策の枠組みと実行する組織を一致させたり、掲げる目的に応じて組織を編成できるような体制にすべきと考えます。

6 おわりに

わずか2年という短い期間で、南丹市独自の施策評価の形を整え、また、ヒアリングに際しては、様々な資料を作成いただくなど、事務局ならびに職員の皆さんの努力については高い評価をしております。

しかし、上記「評価結果の総括」にも記載したとおり、まだまだ改善していただきたい点は多々あります。

特に、南丹市については、財政状況が非常に厳しく行政経営を打ち出しておられ、また合併して4年が経過しているにも関わらず、以前の体制のままで行われている状況が随所に見受けられる点があり、疑問を抱くとともに早急に改善されるべきと考えます。

今後は、行政評価を成熟させていただくとともに、職員の皆さんが時間を掛けて行っている評価や、私たち委員の評価が無になってしまうのを、施策を基本とする行政運営へ転換し、評価の結果が行政運営に活用できる体制に変革いただきますようお願いいたします。

南丹市行政評価推進委員会

委員長 四方 宏 治

委員 窪 田 好 男

谷 口 和 久

宮 本 三 恵 子

村 上 幸 隆